



ほけんだより

18年度12月号

明照保育園



【子どもの健康状態】

11月中の欠席状況は、嘔吐下痢(30人)と熱(29人)が多く、喘息(4人)、肺炎(3人)、咳(2人)、おたふく(2人)でした。11月に最も流行したロタウイルスによる嘔吐下痢症ですが、最近ようやく落ち着いてきました。その後は熱でお休みする子や早退する子が増えています。朝は熱が下がってもまた上がるという子が多いようです。また、高熱が続いたり、単なる風邪とは違う症状が出てきた時には、合併症をおこしている可能性もありますので注意が必要です。



【やけどについて】

広い範囲のやけどをした場合

子どもの場合、熱いお風呂に落ちたりして起こる広い範囲のやけどは、たとえ皮膚が赤くなった程度でも重傷です。濡らしたシーツなどで体を包むように冷やしながらかかりへ連れて行きます。また、水ぶくれができる第2度のやけどでも手のひら位の大きさになると、場合によっては生命にかかわることもありますので、早急に治療を受けるようにしましょう。

低温やけどになった場合

湯たんぽやカイロなどそれほど熱くないものでも、長時間触れていることで起こすやけどです。皮膚がすこし赤くなった程度ですが、皮膚の深くまでやけどが進行しています。気がついたら、すぐ冷やして病院に連れて行きましょう。

やけどの症状

やけどの程度	第1度熱傷	第2度熱傷	第3度熱傷
皮膚の外観	赤くなってひりひりする	水ぶくれができる ただれる	青白くなる
症状	痛い・熱い	激痛がしばらくある	痛みを感じない
すぐ冷やした後 の経過	数日で治り痕になら ない	1~2週間で治り、痕もた だれ	数か月の治療で痕が残 る 皮膚移植も必要

家庭でできる応急手当

□ 皮膚が赤くなった程度のやけどの場合

範囲が小さく、赤くなった程度のやけどであれば、まず流水で十分に冷やします。痛みがとれれば、清潔なガーゼなどでおおるようにしましょう。その後の経過を見てから病院へ行っても心配はないでしょう。

□ 水ぶくれができた場合

水ぶくれをつぶさないようにガーゼなどで保護をしておきましょう。また、500円玉より大きいようなら、病院に連れて行きましょう。

□ 手当てのアドバイス

やけどの手当ては、やけどをした部分の痛みがなくなるまで冷やし続けることが大切です。冷やすことがやけどの最善の手当て・処置になります。しかし、赤ちゃんや乳児の場合には、低体温にならないように注意しましょう。また、やけどをしたところへ「しょう油」や「みそ」「オイル」などはぬらないでください。化膿の原因となり治療には逆効果になります。

【星組さんのお昼寝について】

年少さんも終わりに近づき、園生活にも慣れ体力もついてきたようですので、来年度に向け、毎年この時期徐々に午後の活動を取りいれています。生活のリズムが変わることで、体調を崩しがちになることが予想されますので、ご家庭でも栄養補給・睡眠等、ご配慮下さるようよろしくお願い致します。



予定 1月中旬・・・月・水・金曜日がお昼寝の日
2月・・・月・金曜日がお昼寝の日
3月からは、お昼寝はしません。

※上記の予定が変更になることもありますので、送り迎えの時に星組の掲示を見て確認して下さい。

【おわりに】

年末年始は楽しい行事も多いと思いますが、ゆったりのんびりもできるといいですね。行事を思いきり楽しむためにも、健康が第一です。大人も子どもも過労・不摂生を避けて十分な睡眠、栄養、保温に心がけてくださいネ!

